酪農•有機農業

人も牛も健康に~地球に優しい循環型酪農を目指して~

鈴木牧場(広尾町)



【鈴木牧場のみなさん】

【組織等の概要】

● 代 表 者 : 鈴木敏文

● 従事者数 : 4名(家族3名、酪農実習生1名)

● 飼養頭数 : 120頭

(経産牛60頭、未経産牛49頭、肉用牛11頭)

● 経営概要 : 生乳・牛肉(グラスフェッドビーフ)販売、

鶏卵(有精卵)生産

● ホームページURL: https://www.hiroo-suzukifarm.com/

◇【取組の経緯と概要】

- ◆ 鈴木牧場では、平成20年、22年に発生した家畜伝 染病(牛サルモネラ感染症)により、甚大な経済的 損失を負った。
- ◆「予防は最大の治療」と考え、牛の健康管理を第一に、粗飼料生産・飼養管理の作業内容を改善。 現在では、完熟させた発酵堆肥を基肥とし、農薬・ 化学肥料を使用せずに栽培した牧草を牛に給与。
- ◆ 平成27年から、町内の漁協から養殖で使用する 海水を入手し、飼料としての塩づくりを開始。完成 したミネラル分の豊富な塩は、牛に給与するほか 一般消費者や管内の食品製造業者に販売。
- ◆ 令和2年、3年に有機JAS認証を取得。

【取組の成果】

- 農薬・化学肥料を使用しない牧草生産を実現 (有機JAS認証の範囲内で購入圧ペんとうもろこしを少量 給与。⇒サイレージ用デントコーンの作付け不要)

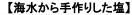
[令和3年] 有機畜産物(生乳・牛肉・鶏卵)

- 疾病牛の発生割合及び治療経費が8割減少 「平成20年⇒令和2年」
- 有機酪農を実践したことで、乳質が向上し、 ゆとりある牧場経営を実現
- 農林水産省「サステナアワード2020伝えたい 日本の"サステナブル"」実践賞を受賞

【取り組む際に生じた課題と対応方法】

- ▶ 牛サルモネラ感染症が発生したことで・・・
 - ✓ 治療で抗生剤を投与している乳牛から搾る生 乳は出荷停止となるため、**収入が減少**。
 - ✓ 医薬品代、消毒用の薬品代、検査料、保菌牛 の淘汰等にかかる**支出が増加**。
 - ✓ 終息するまで5か月を要し、経営状況だけで なく精神的にも厳しい日々が継続。
- ▶ 獣医師の妻・なつきさんと、牧場内の作業を見直し、3つの改善策を実施。
 - ✓ 良質な粗飼料生産の実践
 - ✓ カウコンフォート(乳牛の快適性)の追求
 - ✓ 乾乳期における牛群管理の改善
- ▶ 有機酪農により、飼養頭数・1頭当たり乳量は減少したが、放牧等で労働力の削減を実施。

【有機JAS認証取得の生乳等】







【今後の展望】

- ●「すべては健康のために」との思いから、循環型農業を実践。これからも新しいことへの挑戦を継続。
- ★一ガニック牛乳の販売開始を目指す。 〔令和4年予定〕
- ◆ 牛の健康のために始めた塩づくりを地場産品として、地域活性化に貢献できるように継続。